

HPAM
Hiroshima Prefectural
Art Museum
Collection 2015
コレクション2015

The Avant-Garde of Shapes and Colors
—with a Focus on TAKAHASHI Shu

前衛形と彩の
高橋秀を中心
に



高橋秀
＜フィンガー・ボールー青＞(32種の版画)
1973(昭和48)年

平成28年(2016)

1.10_日 → 4.10_日

HPAM
Hiroshima Prefectural
Art Museum
Collection 2015
コレクション2015

Commemoration of the Exhibition "Mt-fuji by Hokusai":
What a Breathtaking View! What a Breathtaking View!

北斎の富士展開催記念展示
絶景絶景
かなかな



横山英謙
＜富士＞
1973(昭和48)年

平成28年(2016)

1.10_日 → 4.17_日

開館時間: 9:00 - 17:00

※ 3月31日までの金曜日は19:00まで

それ以降の金曜日は20:00まで開館(予定)

※ 入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日

※ 祝日、振替休日、3月31日までの特別展会期中は開館

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円

高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※ () 内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



名勝「縮景園」とともに歩む アートの杜
広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL(082)221-6246
http://www.hpam.jp/ FAX(082)223-1444

形と彩の前衛 —高橋秀を中心に

【概要】

このたびの展示では、独特の象形と軽快な色彩とによる抽象表現で、国際的に高い評価を受けている高橋秀の作品を中心に、やはり色彩と象形に特徴のある菅井汲や金光松美らの作品を加え、抽象絵画の音楽にも似た楽しさをご紹介したいと考えて企画したものです。

この3人には作品の方向性にも共通点が多いのですが、共に、海外で長く活躍したことは、彼らの創作の上で大変重要な共通点だったのではないかと考えます。そこで、今回はそれぞれの作家が、異国の地でどのように自分の表現を確立していったのか、ターニング・ポイントとなった作品やエピソードを交え、リズムカルにご紹介したいとおもいます。

【見どころ】

まず最初のコーナーでは、「イタリアで切り拓いたエスプリ」と題して高橋秀のイタリア時代前半の作品をご紹介します。彼の作品が奏でる明るくて軽快なリズム感をご堪能ください。

2番目のコーナーは「高橋秀 版画の仕事」と題して、高橋秀がどのような仕事を経て現在知られるような明るい作品を生み出すようになっていったのか。また、版画は彼の創作にどのような役割を果たしたのか、時間軸に沿ってご紹介します。

3番目のコーナーでは「二つの祖国」と題して高橋同様長く外国で活躍した作家、金光松美の作品をご紹介します。アメリカ生まれの彼は、中学を卒業するとアメリカに渡り、やがてアメリカ軍の徴兵を受け陸軍に入隊しました。しかし第二次大戦によって敵性外国人扱いを受け、自身のナショナリティが揺らぎます。その後も様々な局面で、日本とアメリカという二つの祖国に、自分は何者なのかを深く考えるようになります。ここでは彼の作品を通して長く海外で活躍を続けるということの意味を考えてみたいと思います。

最後のコーナーは「新しい美術を求めて」と題して菅井汲作品をご紹介します。菅井がフランスで認められはじめた頃、「日本人ならではの感覚だ」と評され、日本人からは「フランスで修行しただけある」と、それぞれ土地に縛られたチグハグな言葉で評価されました。菅井に限らず、海外で長く活躍した作家は、多かれ少なかれ経験することでしょう。しかし菅井はそのことに反発します。日本風もフランス風も全部ひっくるめて菅井風だと呼ばせたい。こうした思いが菅井を、「今はまだ世の中に存在しない次世代の美術を自分の手で作り上げる」という夢に向かって走らせました。全ての作家が目指すであろう、自分だけの新しい美術。その情熱を、菅井の作品を通して感じて頂ければ幸いです。



高橋秀《かにかのある静物》昭和35(1960)年



金光松美《Mt. WHITNEY》昭和51(1976)年



菅井汲《DIABLE PARTANT POUR LA LUNE (月へ旅立つ鬼)》昭和38(1963)年

北斎の富士展開催記念展示 絶景かな絶景かな

【概要】

絶景かな 絶景かな—歌舞伎『楼門五三桐』の中で石川五右衛門が夕暮れ時の満開の桜を眺めながら言う台詞。いつの時代も「絶景」は、人々を魅了してきました。本展では、北斎の富士展の開催を記念し、「山を眺めて」、「絵画で名所をたずねて」、「幻想的な世界を旅して」、「移ろいを感じて 朝から夜へ、冬から春へ」、「小さな箱に秘められた、大きな世界を感じて」の5つのテーマから風景にまつわる作品をご紹介します。

美術館にいながらにして楽しむことのできる、見たことのない「絶景」の数々をお楽しみください。

【見どころ】

絵画で名所をたずねて

浮世絵において名所絵(風景画)を生み出したといわれる葛飾北斎の富士に関連し、このコーナーでは作品によって名所を訪ねます。

横山大観《霊峰不二》にはじまり、30余りの島々による美しい風景から国の名勝にも指定されている隠岐白島海岸を描いた小林和作《隠岐白島》、世界遺産にも登録されているペルセポリスの遺跡を写実的な表現を用いながら叙情的にとらえた平山郁夫《波斯黄堂旧址》、そして広島の名所である宮島まで。そこには作者たちが体感したその場の空気も表現されています。



横山大観《霊峰不二》

移ろいを感じて 朝から夜へ、冬から春へ

時間や季節によって移ろう風景を好む日本人的な感性は、すでに『枕草子』のころからあったといわれています。北斎が一連の富士の作品の中で、様々な気象変化と富士を合わせて描いたように、移ろう風景は様々に表現されてきました。

平山郁夫《黄河(晨)》は朝日によって神々しく輝く黄河を描き、奥田元宋は月に照らし出される幻想的な夜の情景をとらえています。心地のよい晩春の風によって、花びらが舞い踊る様が華やかな児玉希望《晩春》は、季節によって移ろう一瞬の美を描き出しています。



奥田元宋《待月》
1949 (昭和24)年

小さな箱に秘められた、大きな世界を感じて

風景を描いているのは絵画作品だけではありません。《金梨地瀧山水蒔絵料紙文庫》は、春の情景を描きながら、蓋を開けるとその裏には秋の情景が描かれており、小さな箱でありながら季節の移ろいを表現しています。一方で、六角紫水《大空と洋海の驚異手箱》は変わり種。描かれているのは、荒れ狂う海に翻弄される船と嵐の中を進む飛行船です。誰もが知る北斎の名作《神奈川沖浪裏》でも高い波に翻弄される船が描かれているように、美しいだけではない自然の脅威を感じさせます。



六角紫水《大空と洋海の驚異手箱》
1934 (昭和9)年

【関連イベント】

※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが、HPAMコレクション展についてわかりやすく解説します。

日時：平日14:00～/土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場所：2階展示室

参加料：無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

※ただし、2016年3月5日 14:00～の回は休み

美術館でハイチーズ！作品を背景に写真を撮ろう。

本展に展示されている作品の前で、ここでしか撮れない記念撮影はいかがですか？絶景を前に旅行気分どうぞ。その場でプリントアウトしてプレゼント！

日時：1月17日(日) 9:00～17:00

受付：2階4室前ロビー 会場：2階3・4室

ご持参いただくもの：デジタルカメラ、携帯電話など(SDカード使用またはUSB接続が可能な撮影機器)

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要。

※詳細は当館HPをご参照ください。

コレクションを描いてみよう♪スペシャル「絶景を描いてみよう！」

HPAM コレクション展「絶景かな 絶景かな」を鑑賞後、お隣の縮景園へ「絶景」を探しに行きます。縮景園のガイド付き！絶景を描こう！

日時：3月13日(日)9:30～12:00

講師：山本志帆(作家)、観光アシスタントひろしま、山本恵子(当館指定管理者学芸員)

受付：2階ロビー 会場：2階3・4室及び縮景園 対象：4歳～中学生 料金：500円 定員：20名

申込方法：お電話でお申込みください。(お名前、年齢、ご連絡先をお伺いします。)

広島県立美術館 082-221-6246(9:00-17:00)

※詳細は当館HPをご参照ください。

ミニギャラリートーク

日時：2月7日(日) 13:00～13:30

会場：2階 彫刻展示スペース、1・2室

講師：角田 新(当館主任学芸員)

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. ke.yamamoto@nomura-g.jp (山本宛)

担当 学芸課 角田 新

事業推進課 山本恵子